

昭和48年1月13日第三種郵便認可

HSK通巻516号

発行日/2015年3月10日(毎月10日発行)

編集人/白老町手をつなぐ育成会 佐藤春光

北海道白老郡白老町字萩野 310-110

TEL (0144) 83-3537

会報/222

発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会 (HSK)

定価/1部100円(会費に含む)

HSK

2015. 3月号

ほほえみ



くらたあゆむ

白老町手をつなぐ育成会

社会福祉法人は儲かっているの？

いま、社会福祉法人の会計をめぐる様々な議論が交わされています。その中で「社会福祉法人は儲かっている」という論が最も主張されてきています。「社会福祉法人は儲かっている」のでしょうか。

運転資金と内部留保は別

例えば、2014年8月の日本経済新聞は、「社会福祉法人の8割、金融資産1億円以上」という見出しをつけた記事を載せました。この記事の内容の根拠となった調査方法を見ると、対象が年間収入10億円を超える社会福祉法人3000カ所の内320カ所からの回答をもとに書いていたのです。

年間収入10億円以上の法人となると、1か月の運営に必要な資金はだいたい1億円かかります。「1億円という金融資産」は運転資金なのです。社会福祉法人ホープを設立するとき、運転資金の2か月分の預金が求められました。なぜなら、事業を開始してから2か月間、びた一文給付費は事業所に支払われないのです。

ですから、どんな法人でも2か月分の運転資金がなければ自転車操業をしていることになるのです。「1億円以上」という記事から読み取るとしたなら、かつかつの運営資金で運営している法人が相当数あるということなのです。

自己資金は地域の協力と補助金と借金で作っている

しかし、「8割が金融資産を1億円以上」というタイトルを見て思うことは、「社会福祉法人はどこでも1億円ぐらい貯め込んでいる→いいのか」という疑問ではないでしょうか。

社会福祉法人ホープも、外からちょっと見ただけでは景気が良さそうに見えます。グループホームの新設や、登別に新しい事業所を新設……。それらは全て地域からの協力等で自己資金を集め、様々な補助金制度を活用し、最後は借金をして実現している事なのです。「そんなに急いでやって大丈夫か」という声も聞こえてきます。社会福祉法人ホープが走り続けるのは、一人一人の通所者にとって、法人のスピードが人生の内容の充実につながっていると考えているからです。職員のほとんどがパート労働待遇ではあるけれど、正職員と同じ働きをしているからやれている事なのです。

そもそも営利を目的とする企業会計と社会福祉事業を行う法人会計を単純比較すること自体が意味をなさないのです。

社会福祉法人への攻撃は福祉の未来を照らすのか

「巨額な内部留保」「優遇されている社会福祉法人」「国家・地域への貢献を法的に」等という声は、何をめざしての発言なのでしょうか。

フロンティアが産まれたときは、職員の日給が200円というボランティアからの出発でした。地域で障がい者の未来を保証するためには職員が食べていける給料を取れるようにしなければだめだと言うことで、当時無謀とも思える社会福祉法人をめざしたのです。国の認可が出てから自己資金を集めるのも必死でした。様々な事業を行い、会う人人に寄付を訴えました。それでも足りなく2,000万円以上の借金をしたのです。

社会福祉法人が行う社会福祉事業とは何か

社会福祉法人は、本来公的な行政が行わなければならない事業を行っているのです。行政が行う事業だからこそ税金が免除されているのです。それは行政が税金を払っていないのと同じ意味なのです。

営利事業者を参入させた競争がサービスの質を高めたか

昨年7月に、NHK が2回にわたり「障がい者福祉を食い物に」というテーマで特集をくみました。本当に悪質な、貧困ビジネスと言わざるを得ないような事業が全国各地で急速に広がっているのです。

障がい者を対象とする事業への新規参入セミナー・コンサルティングが全国規模で開催されています。セミナーの内容は、「まずとにかく利用者を集めなさい」「作業は紙で折り紙を延々と作らせておけばよい」「社長の車を洗わせておけばよい」などと耳を疑う言葉も出て来ます。そういったなかで事業者数はこの5年間で5倍に増え、その大部分が営利法人です。参入説明会案内のダイレクトメールには、「今がチャンス」「介護保険は飽和状態で昔ほど旨みがない」「障がい者福祉分野は売り上げが2倍」「ずぶの素人でも大成功」という言葉が並びます。放課後デイサービスセミナーにいたっては、「1か月の売り上げは200万円以上、うち営業利益は80万円以上が確実」「業界知識ゼロで可能」というスーパーブラック企業の勧めが謳われています。

社会福祉事業全般、介護・障がい・保育全てにおいて大きく質が問われる事態が進行しているのです。

歪みのもととは構造改革

厚生労働省は、障がい福祉分野の予算が伸びたと言っています。実際、伸びているのは少くない部分が営利事業者向けの事業です。だいぶ前、札幌など大都市では、「障がい者募集」のチラシがよく入るといった記事を書きました。今では白老でもチラシが入ります。

税金が『儲け』となって営利事業者の懐に収まるような状況は、「質の高いサービスを効率的に提供できる」という政府の主張とまったく矛盾しているものです。現在進行している事態は、質の高いサービスを効率的に提供できるどころか、低劣な福祉があちこちに広がっている実態なのです。

障がい福祉に対する理念もなく、専門性もない事業者が、『儲かる』と言って障がい者を食い物にし、職員を使い捨てにしてポロ儲けをするような状況を食い止めていかなくてはなりません。税金から『儲け』を生むしくみが容認されていることは重大問題なのです。

権利としての社会福祉、社会保障を築いていくことの必要性

白老町手をつなぐ育成会が、障がい者の働く場として無認可の作業所を開いてから18年が過ぎました。フロンティアはこの18年間でたくさんの善意が集まり、社会福祉法人へと大きく成長することができました。そのおかげで、たくさんの障がい者に手をさしのべることが出来るようになりました。

行政には障がい者を守る役割があります。事業を維持するための費用、職員の人件費、利用者支援に必要な費用などを「最低基準」にもとづく費用として事業者に支払い、同時にそれが適切に使われているかを責任を持って監督する役割です。

しかし、公的な福祉制度を縮小し、解体していくというねらいから、福祉を金儲けの市場に投げ出す事は見逃せません。

自己責任の歪曲

自立支援法ができ、作業所に通うのに自己負担が求められた時から、障がい者の分野にも利用者という言葉が出てきました。「サービス選択の自由」から「利用料」が発生するようになりました。働きに通うのに「利用料」を払うことになったのです。心配なのは、これから「お金で買う福祉」→「障がい者であることも自己責任」→「弱者であることも自己責任」という社会が出て来そうな気がするのは杞憂でしょうか。

いのちと権利を守ることに競争原理はなじみません

(※きょうされんTOMO3月号参照)

ふろんていあ♡メール
Frontier

就労支援施設
 フロンティア♡MAIL

2015年3月号

〒059-0922
 白老町萩野310-110
 TEL・FAX0144-83-3537

入学・卒業・転勤など

お祝い、お礼、ご挨拶にいかがですか？

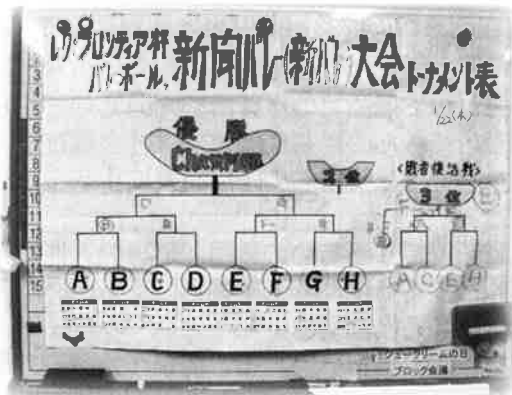


★菓子詰合せ(中) 価格(税込)1,060円
 ・クッキー1袋・ステックパイ1袋・パウンドケーキ(スライス)3枚
 ・スイートポテト2個・アップルパイ1個

★菓子詰合せ(小) 価格(税込)520円
 ・クッキー1袋・ステックパイ1袋・パウンドケーキ(スライス)2枚
 箱サイズ (18cm×11.7cm×10.5cm)

箱サイズ (22cm×15cm×9cm)

他、ご予算に合わせて詰合せも致します、ご相談くださいませ。



1月22日フロンティアでは、新聞バレー大会を開催いたしました。トーナメント制で各チーム優勝を目指して頑張りました。

ところで新聞バレーとは？

簡単に説明＝シユレッターで切った新聞紙をビニール袋に入れた玉を20個ぐらい用意します、よーい！スタートで相手のコートに玉を入れ終了のホイッスルの時点でコートにある玉の数が少ない方が勝利となります。(玉は1個ずつ投げる)



歌手

フロンティアの運転手 山下さんが2月18日朝の会で歌をみんなに聞かせてくれました。曲は、「野に咲く花のように」とアンコールで「バラは憧れ」の2曲を披露してくれました。みんな朝から楽しい一日を過ごしました。



新車

フロンティアに2月20日、新車が納車になりました。キャラバンです。車椅子が、なんと乗ったまま2台も乗れるんですよ!! 日本財団様ありがとうございます。



除雪

今年の冬から始めた除雪作業です。

古くなり廃車にしたトラックにハイド板を装着しました。

準備はバッチリ、ところが今年は雪が例年より少なく、出番が数回しかありませんでした。



フロンティアではビデオテープをDVDに変換しています

ビデオテープは劣化していくため長く保管することはできません。

大切な思い出の詰まったビデオテープをDVDにすることをおすすめします。

VHS、βマックス、VHS-C、8mmテープ、DVデジタルテープなど格安で変換致します。

御注文お待ちしております。

フロンティア登別竣工



春の兆しを感じるようになってきた2月28日(土)にフロンティア登別の建設工事が完了し、社会福祉法人ホープに無事に引き渡されました。

売店と鹿肉ハンバーグ工場を主な作業職種として障がいを持つ仲間が楽しく仕事に取り組める作業所にしたいです。



完成



フロンティア登別設立準備会報告会

建設工事が完了した次の日、完成した施設でフロンティア登別設立準備会が開催されました。

新しい施設を内覧するとともに建設に至るまでの経過報告やフロンティア登別の運営内容の説明などを行い、参加者の皆さんからは新たな作業所に向けた期待や要望がだされました。

これからスタートする「フロンティア登別」はさまざまな人たちが集い語り合いながら育っていく社会資源として地域と共に歩んでいければと思っています。



三愛病院さんが協力医療機関に!!

登別で精神保健医療・福祉を支えてこられた三愛病院さんと協力医療機関の協定を結びました。これから健康診断や医療相談などお世話になりますがよろしくお願いします。

第10回登別市障害者週間記念事業に参加してきました

「フロンティア登別」の開設するにあたって大きな力となってくれた登別市障害者福祉関係団体連絡協議会が主催する第10回「障害者週間」記念事業にまだ、開設前ですが協議会の皆様のご厚意で「フロンティア登別」内覧会の案内を携えて参加させていただきました。



試食販売用に持って行った鹿肉の缶詰も好評で思った以上に売れました。少しずつイベントなどにも参加して地域の皆さんと顔を合わせ登別の地に根付いていきたいと思えます。





HSK ほほえみ

昭和48年1月13日 第三種郵便物認可
発行日 2015年3月10日発行(毎月10日発行)
HSK通巻番号516号
編集人/北海道白老郡白老町字萩野310-110
白老町手をつなぐ育成会 佐藤 春光
Tel 0144-83-3537
会報/222号
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)
定価/1部100円(会費に含む)